

美輪さんの銀田里跡を夏燕

(寝屋川市) 今西 富幸

死してなほ愛さるる人アロハシャツ

(長崎市) 團 俊晴

フェラーリの如き背中や青蛙

(西条市) 高田 真理

ため息がまた白玉に変わりけり

(横浜市) 三玉 一郎

この夏もまた寄り添はむ扇風機

(多摩市) 倉林 浩一

暑き夜やコンビナートは銀の森

(国分寺市) 野々村澄夫

部屋千しの梁をつたふや青大将

(東京都杉並区) 本城ゆかり

考へる人考へる日の盛

(成田市) 金子 睦男

短夜の果ての逆転ゴールかな

(川崎市) 長畑 なみ

短夜や天皇制の八十年

(岐阜県垂井町) 北嶋 克司

【評】一席。壮絶にして優雅な一生。銀座七丁目にあった。二席。死ねば忘れられる人、死んでから愛される人も。三席。引き締まった腰、浮きあがる背骨。イケてるイタリア車。十句目。どこかで大きく変えられてゆく戦後。そんな予感の句。

姉米寿兄卒寿越ゆ明易し

(大牟田市) 古賀 紀子

垣間見る人なき里の栗の花

(宝塚市) 錦織 久夫

この郷も限界集落河鹿鳴く

(今治市) 横田青天子

端居して移りゆく世にさからはず

(仙合市) 武田 道直

おほどかに茅の輪をくぐる白袴

(富士宮市) 高村富士郎

亡き妻のにはふ簞笥や更衣

(春日部市) 池田 桐人

銭湯の明りも消えて梅雨の月

(芦屋市) 正井 健一

海の日や怒濤遙かに貨物船

(柏市) 藤嶋 務

老斑のわが手いとほし更衣

(東金市) 村井 松潭

這ひ這ひを這ひ這ひで追ひ裸の子

(鎌ヶ谷市) 海野 公生

【評】第1句。姉は88歳となり兄は90歳を超えた。自分も明るく長寿を全うしたい。第2句。人なき里に栗の花が咲いている。実が生っても採る人はいないだろう。寂しい。第3句。近年少子高齢化等により限界集落が増えている。対策が必要。